

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成30年度病虫害発生予報第12号(3月)について

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

予報第12号

イチゴのハダニ類の防除を徹底しましょう

9月から1月にかけて、ハダニの発生量は平年より少なく推移してきました。しかし1月から2月にかけては急激に増加しています。

ハダニ類は多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意して初期防除を徹底しましょう。

また、今後一か月の気象予報では気温が高く日照量も少ない傾向にあるので、その他の病虫害の発生状況にも注意しましょう。



ナミハダニの雌成虫および卵



ナミハダニが多数寄生した葉裏

<予想される向こう1か月の天候(平成31年3月2日~平成31年4月1日)>

暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高い見込みです。特に、期間の前半は気温がかなり高くなるでしょう。

低気圧や前線の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並20 高70% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

(福岡管区气象台 平成31年2月28日発表抜粋)

3月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	3月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少	やや少	並
		並	やや多	やや多
冬春ナス	すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや多	やや多
		やや少	並	やや多
茶	カンザワハダニ	多	多	並

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

注3) 茶のカンザワハダニの予報は、裾葉での調査結果を基に作成。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病葉率 0%（平年 0.27%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

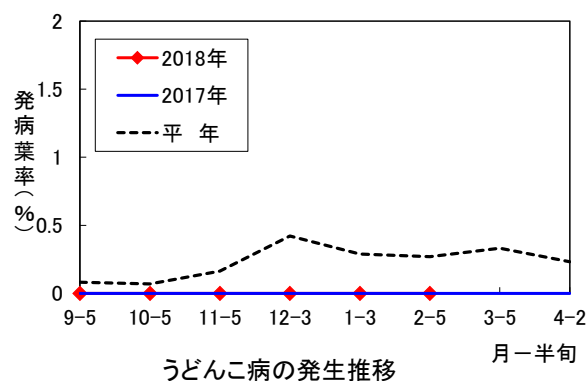
(3) 防除上の注意

ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

イ 早期発見に努め、古葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p5の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半月調査の結果、発生量は平年並（±）。

寄生株率 12.4%（平年 16.2%、前年 14.4%）

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。

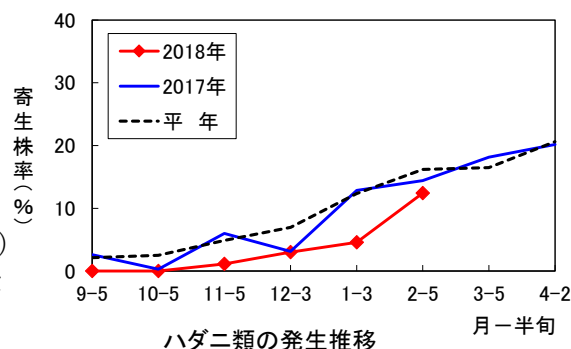
(3) 防除上の注意

ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行くと効果的である。

ウ ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。

エ 抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布の中に気門封鎖剤も組み入れ、効果的な防除に努める。



オ 気温の上昇に伴い、次年度用親株での発生量の増加が懸念されるので、本ぼだけでなく親株の管理についても留意する。

## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すずかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病葉率 11.4%（平年 16.2%、前年 8.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（+）。

(3) 防除上の注意

ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

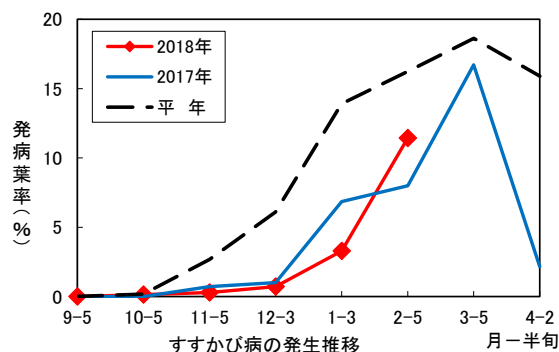
イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 病勢が進展すると防除が困難であるため、発生初期の防除を徹底する。

エ 散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する。

オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

カ すずかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



### 2 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、冬春ナスにおける発生量は平年よりやや少なかった（-〜±）。

寄生葉率 2.4%（平年 6.2%、前年 5.4%）

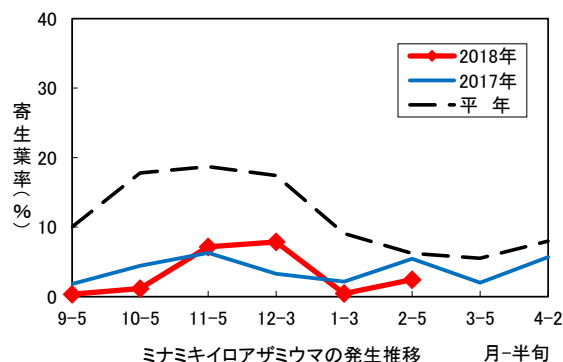
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（+）。

(3) 防除上の注意

ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。なお、薬剤抵抗性の発達を回避するために、同一系統薬剤の連用は避ける。

ウ 天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



## 【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (3月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	多	多	多	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。</li> <li>発病果や、収穫終了後の果梗枝は除去する。</li> <li>古葉かぎを適宜行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> <li>病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。</li> <li>株元まで薬剤がかかるよう、丁寧に薬剤を散布する。</li> <li>同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。</li> </ul>

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (3月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
		平年比	前年比	
冬春ナス 灰色かび病	多	多	多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。</li> <li>・発病果、発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>・病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。</li> <li>・散布ムラができないよう、丁寧に薬剤を散布する。</li> <li>・同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。</li> </ul>

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、裾葉での発生量は平年よりやや多かった(+)。

イ 裾葉での越冬後第1世代孵化幼虫の発生ほ場率は、平年より高い(+)

(裾葉)

寄生葉率 4.0%(平年 3.2%、前年 3.4%)

50葉当たり虫数 3.9頭(平年 3.7頭、前年 4.5頭)

発生ほ場率 80%(平年 50%、前年 60%)

孵化幼虫の発生ほ場率 30%(平年 18%、前年 40%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

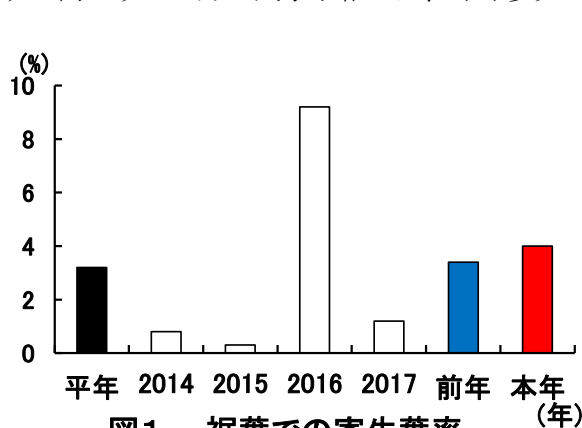


図1 裾葉での寄生葉率

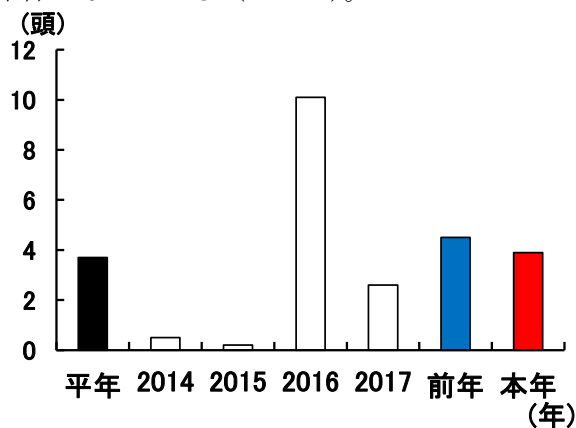


図2 裾葉50葉当たりの寄生虫数

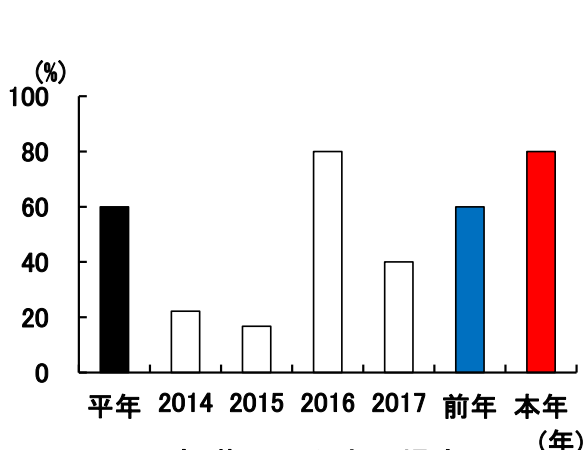


図3 裾葉での発生ほ場率

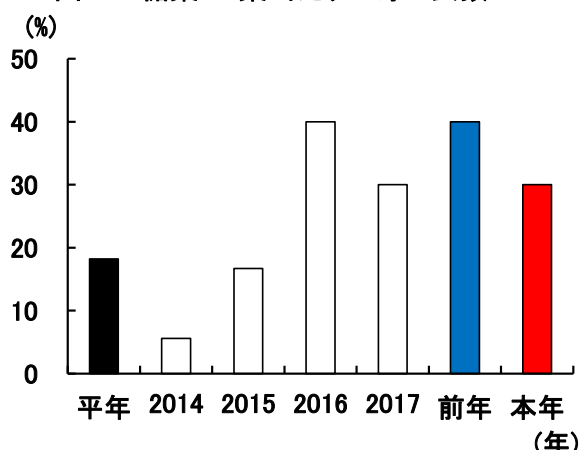


図4 裾葉での孵化幼虫の発生ほ場率

### (3) 防除上の注意

- ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は、卵にも効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。
- イ 春期の基本防除は、孵化幼虫の発生初期をねらって行う。  
基本の防除時期は、平坦地で3月中旬、山間地で3月下旬であるが、3月の気温は高いと予想されており、幼虫の発生は早まると予想されるため、必ず園の発生状況を見ながら防除を行う。
- ウ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- オ 農薬の使用及び散布等にあたっては、以下の内容を確認の上、適切に実施する。

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

### 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布は場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗淨

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗淨する。

### 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



最新の病害虫発生状況